午前10時上映

アンケートまとめ

来場者	142	アンケート数	28	回収率	20%

大変良かった	20	良かった	7	普通	1	良くなかった

【ご感想】

This was a very well-made movie. I feel great appriciation for the film makers and and all the participants. The stories of the Hibakusha were used very well and made a powerfull impact. The visuals, sound and music were very unique and impressive.
私の祖父・祖母も17歳で被爆しました。戦争時代、原爆が落ちた日の事など、少しの話しか聞いたことがなく、今になって聞いておけばよかった、でも話をしたくなかったのかなと考えながら、映画を観ていました。長崎出身、長崎在住者として多くの方に知ってもらいたい、伝えていきたいと思いました。ありがとうございました。
ほんとうにたくさんの被爆者がいらっしゃいました。体験を伺ったり、本を読んだりして、一人ひとりの被爆の実態を知り、核兵器の非人道性を理解を深めてきました。今日また新しい被爆者の証言を教えていただきました。のりこさんのお母様がのりこさんたちに何故語らなかったのか今までよく理解できていません。これから考えて行こうと思っています。本日はありがとうございました。
語らなかったけど、手紙を残して原爆の実相や、つらさ、こわさなどを伝えたかったのかな。被爆者の数人の生の声を聞けて長崎原爆の実相がより明確になりよかったと思います。
ありがとうございました。心にずしりときました。残りの人生、しっかりと生きて行こうと思いました。被爆者として、これからも長崎でどんなことがあったのか、平和とは？子どもたちと考えて行きます。
住みなれた家、住みなれた町、長崎の今と、あのとき、あの日、被爆者の今と、あの日の記憶と、私のくらしを今一度、おもい返してみたい。そんな気持ちを引きおこしてくれた作品でした。人と人のつながり、身内の思いを大切にすることをおしえてもらったことを感謝します。日常の忙しさにかまけた私でした。反省しています。ありがとうございました。
被爆者が語りたくない、語らない気持ちが少し分かった気がする。こういう身近なドキュメンタリー、原爆が眼の前に見えるドキュメンタリーを、外国人の監督がつくろうと決意を持ってくれたことに感謝したい。一方、日本の監督が出来ていないことに少し違和感を感じる。長崎を知る人にとっては、場所、距離など地の利感をもって分かるが、外国人や長崎以外の人にとっては感じ方が違うであろう。
”おくりもの”として受け入れる。送る側の意図にそれがなかったとしても、それが私たち次第なのだと教えられ、送る側にそう遠くない時を迎える自分の生き方を考えさせる機会になりました。辛い過去を話したくない人、伝えなければと努力される方、双方の思いを深く感じました。ありがとうございました。
上映いただき、ありがとうございました。考える時間、いただきました。
私も被爆二世です。共感する事たくさんありました。良い映画ありがとうございました。
上映会に期待して観させて頂きました。私の母も被爆者でした。原爆については数回話を聞いたことがあります。映画の様に母が亡くなり、物を整理している際、ノートを見つけ、開いてみると、どこかへ出した記録かと思いますが、原爆の想い出がかいてありました。短い文でしたが、しっかり読みました。大切に保管してあります。
被爆者への理解がとても足りない事を実感させられました。この映画を通して頂いた貴重な示唆を、今後もっと深めたいと思います。

被爆の思い出を何も語られなかったお母様が大事に保管されていた手紙の重さがとても伝わってきました。原爆ホームに勤めていますが、ご利用者もほとんど語られません。言われるのは”戦争はぜったいダメ””原爆はもう終わり”という気持ち、この被爆者の思いは貴重な”おくりもの”なのだと思います。ゆっくりふりかえって味わいたいと思います。
多くのことを語られない分、自分の中で色々と考えながら、見ることができました。長崎に生まれ、改めて反戦の気持ちが高まりました。ありがとうございました。
被爆体験をきいたり読んだりしていたが、また違う側面の話を知ることができてよかった。生活の視点からの映画はよかったです。ありがとうございました。
長崎の歴史を知ること、知らないことが、たくさんありました。いろいろ考えました。とてもよかったです。
現在、政府が短期間に戦争する準備をしています。法律も整備されつつあります。改めて恐ろしいと思いました。
現代の長崎県を舞台にしているところが非常にリアリティがあり、遠くの、昔のできごとではなく、私たちの住む長崎で起きたことだとういうことが、強く感じられた。
私はちょうど11年前に長崎へひっこして来ました。それまで育った静岡では、原爆の事は学校でもくわしくは聞いてこなかったので、今回、この映画を観させて頂き、小3の娘とあらためて、平和について話し合い。これから、自分たちも何が出来るかを考えて行きたいと思いました。とても心に残る映画でした。ありがとうございました。
心に残る作品でした。長崎に来て良かった。おくりものをありがとう。
とても感動しました。それぞれの方の語る想い、語れない想い、おくりものとして、受け取りたいと思いました。すてきな映画をありがとうございました。
自分が伝えられる贈り物とは、何かと今想っています。親から受けた愛情を子、孫の世代へつなげていけたらと思いました。
とても素晴らしいドキュメンタリー映画でした。私も被爆二世です。父があまり語らなかったので、終戦の日にあるニュースや当時の長崎の映像を見て知り得るだけでした。一つ気になってしまったのが、わだしまさんの息子さんは、お母様みつ子さんとはどういう関わりがあったのか？それにより長い間手紙のやりとりがあったのは、すごいことだと思ったので!!きょうはありがとうございました。
原爆80年、毎年この日になると色々様々なことをお話を耳にします。「おくりもの」ドキュメンタリー映画、どんなドキュメントか興味ありました。私の母は郊外爆風を受け、口ぐせは「戦争したらいけん！」でした。その母の言葉と重ねて被爆者の方々のお話を伺いながら、同じ時間、あのサイレンの音（1分間の黙とうで毎年この時間に一瞬に何もかも家族・家・すべてなくされたと思うと、そのシーンが胸一ぱいになりました。今年もその時がやってきます。平和でいつまでも続くように願いを込めたいと思います。
げんばくがこわいことがわかった。
原爆のことは小さい時から学んでいたけど、それは、当時のことを話してくださった方々のおかげなのだとすごく感じました。戦争というだけでも、つらい日々の中で、一日にして、それまで暮らしていた町が一変してしまったと思います。想像もできない状況だと思うので、話せない、話したくない、思い出したくないという気持ちになっておかしくないと思いました。私たちは忘れてはいけないし、繰り返すようなことがあってはいけない。と改めて思いました。本当にありがとうございました。

【その他何でも】

記憶の継承をということももちろん大切だが、この経験を今まさに起きている戦争を防いだり、平和をもたらすために、どう活用できるのか、もっともっとこの被爆地から話し合いたい。
実行委員会の皆様、上映の機会をもうけて頂き、有難うございました。
私の祖父も戦争のことを多くは語りませんでしたが、生き残った分、人を大切にし、できることを懸命に取り組み、感謝を忘れない人でした。私も、今ある幸せを大切に一日一日を大切に感謝して生きようと思います。

【お住まい】

市内	19	市外	5	県外	4		

【年齢】

8歳	1	20代		30代	1	40代	4
50代	4	60代	7	70代	10	80代以上	3

【性別】

男性	6	女性	22	その他	1